

平成26（2014）年度入学者

専門教育科目

科目名	地域活動演習Ⅱ	科目ナンバリング	H0CC24023
担当者氏名	木下 幸文、河野 稔		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-2 効果的な意思疎通ができる（コミュニケーション力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ）		

《授業の概要》

地域社会における運動指導現場やボランティア現場等に参加し、実際の活動を通して、社会人としての行動を身につけ、指導者・教育者としての心構え、指導法、および、現場における課題等を体験的に学習する。実習先は、公共・民間のフィットネス施設、各種スポーツクラブおよびチーム、学校や教育施設、地方公共団体や非営利目的の諸団体等、その他、担当者が認めた施設・各種団体である。

《授業の到達目標》

- 地域の活動現場において、現場にいる人々と協同して行動できる。
- 大学での学修成果を、現場での指導や教育などの活動に生かせる。
- 現場での諸問題を理解し、その解決に向けて主体的に取り組める。

《成績評価の方法》

実習の記録（40%）、実習後の報告（40%）、平常点（20%）とする。実習の記録や報告（プレゼンテーション）は、ルーブリックを使って評価していく。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の内容について話し合う。特に実習先の検討。学生の実習先の希望等について打ち合わせる
2	実習のシミュレーション(1)	実習先でのシミュレーションを行い、実習場面で発生する問題等について議論する：スポーツ組織の運営等
3	実習のシミュレーション(2)	各施設先（実習先）を想定し、2週目で発生した諸問題について検討し、指導力を養うための講義とするスポーツ組織の運営等
4	学外実習	実習先での授業（第1回目 挨拶、打ち合わせ、仕事の内容等について現場指導者との協議に入る）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
5	学外実習	実習先での授業（第2回目 仕事の内容について具体的な指示を受ける）：スポーツ事業の計画、運営、実施等
6	学外実習	実習先での授業（第3回目 仕事の実践を通して客と対応していく）対応した内容について反省と明日への対応を検討する。広域スポーツセンターについて考える
7	学外実習	実習先での授業（第4回目 第3回目と同じく仕事の内容に対して反省と自分らしさの指導力を発揮していく）あわせて広域スポーツセンターの機能と役割についても学ぶ
8	学外実習	実習先での授業（第5回目 第4回目を内容をふまえ、自分の指導力への客の反応を反省し、明日への計画に生かしていく）地域におけるスポーツ振興について考える
9	学外実習	実習先での授業（第6回目 第5回目と同じく指導力を発揮し、その内容をふまえ、何が足りないか常に客との繋がりを重視する）地域におけるスポーツ振興について考える
10	学外実習	実習先での授業（第7回目 第6回目を内容をふまえ、実習後半の指導力を反省し、理論と実践を身につけていく）
11	学外実習	実習先での授業（第8回目 第7回目をふまえ、理論と実践が片寄りのない指導になっているかを検討する）
12	学外実習	実習先での授業（第9回目 第8回目をふまえ、各自の指導力が客に対して、評価がどのようなものかを確認する）
13	実習の反省	本学での授業の中で実習先での諸問題等について報告し反省会を開く
14	実習記録の作成	実習先での実習録を作成し、全員でまとめる（各施設ごと）
15	実習報告	各自の報告を発表形式で行う

《テキスト》

授業中に資料を配布する。

《参考図書》

「健康運動指導士養成講習会テキスト（上・下巻）」健康体力づくり事業財団（南江堂）2015年

《授業時間外学習》

予習としては、配布資料をよく読み、実習に備えておくこと。復習としては、実習中の記録を適宜まとめておくこと。

《備考》

原則として、実習先の施設・各種団体へは自らの意思で参加すること。また、実習までに、これまでに学習した専門教育科目の内容を十分に復習しておくこと。

《専門教育科目 II 群（養護・保健に関連する科目）》

科目名	養護活動実習	科目ナンバリング	H2XD23006
担当者氏名	加藤 和代、大平 曜子、米野 吉則		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ◎ 2-3 構築された理論に基づき判断し、行動する（総合的判断力・実践力） ○ 2-4 自らの行動を検証し、行動の修正や開発を行う（応用力） ○ 3-3 人とつながり、責任をもって仕事を成し遂げる（リーダーシップ） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

これまでに修得した保健室の機能と養護教諭の教育的役割を基盤に、実践的な養護教諭の活動の理解を学内実習をとおして深める。

《テキスト》

指定テキストなし

《参考図書》

授業の中で、適宜紹介する

《授業の到達目標》

- 養護教諭の行う保健管理、保健教育の活動の実際を学内実習をとおして体得する。
- 児童生徒一人ひとりを大切にしたい支援について理解し、校内体制、家庭や専門機関と連携について、養護教諭の活動を説明できる。

《授業時間外学習》

これまでに得た知識技術を確認・整理し、主体的にその研鑽に励むとともに、配布資料を確認し、授業内容の予習と復習を欠かさず行う。グループ課題に対しては、計画的に準備をおこないグループ発表に備える。

《成績評価の方法》

小テスト(50%)、レポート(50%)で評価する。
実習に対する小テストは、即時に評価・指導を行い、レポートについてはコメントを付して返却する。

《備考》

通年科目であり、評価は今年修了後に行う。実習科目であるため、出席はもちろんのこと、主体的に取り組む姿勢を重視する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	養護教諭の教育活動
2	疾病管理（1）	心臓疾患、腎臓疾患、糖尿病、アレルギー疾患
3	疾病管理（2）	感染症の予防管理、学校で予防すべき感染症、
4	疾病管理（3）	出席停止、臨時休業、予防接種
5	特別支援教育（1）	特別支援教育システムと役割
6	特別支援教育（2）	児童・生徒の障がいの理解と支援
7	組織活動の実際（1）	学校における保健組織と養護教諭の役割
8	組織活動の実際（2）	学校保健委員会における養護教諭の役割、委員会開催の実際
9	学校保健統計（1）	ソフトによる統計の実際（健康診断、欠席、保健室来室記録等）
10	学校保健統計（2）	災害報告、個人情報管理、データによる統計資料作成等の実際
11	学校行事と養護活動（1）	遠足、運動会、修学旅行、自然体験学習、保護者会等での養護活動
12	学校行事と養護活動（2）	養護活動の実際
13	学校医・学校歯科医・学校薬剤師の職務（1）	職務の実際と執務記録
14	学校医・学校歯科医・学校薬剤師の職務（2）	子どもの健康課題と学校医・学校歯科医と養護教諭とのかかわり
15	まとめ	養護教諭の教育活動と今後の課題、

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I		科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	徳田 泰伸			
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）			

《授業の概要》

(1)卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。(2)インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。(3)個別指導をおこなう。

《テキスト》

その都度指示する

《参考図書》

授業で紹介する

《授業の到達目標》

自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。統計分析の基礎が身につく

《授業時間外学習》

話し合った課題・問題等について文献資料等十分に収集し読み分析し次回までにまとめておく

《成績評価の方法》

研究態度・分析力等（60%）、研究論文・発表（40%）
 中間発表や中間報告は別の用紙にコメントを付して返却する。
 各自への対応は時間を設けて指導する。

《備考》

自らの課題に責任をもち、積極的に学ぶ姿勢が必要。
 日常的に研究を遂行し研究室を有効に活用して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	イントロダクション、卒業研究の進め方
2	研究計画	テーマと研究計画について話し合う
3	研究テーマ	各自が決めた研究テーマについて、指導教員と具体的な計画を話し合う
4	研究	各自で研究を進める
5	研究	各自で研究を進める
6	研究	各自で研究を進める
7	研究	各自で研究を進める
8	研究の途中経過発表 (1)	研究の途中経過発表 (1)
9	研究	各自で研究を進める
10	研究	各自で研究を進める
11	研究	各自で研究を進める
12	研究	各自で研究を進める
13	研究	各自で研究を進める
14	研究の途中経過発表 (1)	現在までの結果、今後の進め方等について発表
15	研究の途中経過発表 (1)	Ⅱ期に向けて研究計画の設定及び途中経過報告

科目名	卒業研究 I		科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	大平 曜子			
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）			

《授業の概要》

健康科学の基礎理論をもとに、日常見過ごしている事柄を研究の視点で見直し、明らかにしたいことを考えます。主に、人間を対象とする実証的研究を行うこととなりますが、基本的な方法や取り組み方は心理学の研究手法を参考にします。必須科目としてまた、健康科学の集大成と位置づけ、これまでの学習内容を丁寧に見直すと共に、研究テーマや課題への接近方法には独自性も加え、自主的に研究に取り組むことが求められます。

《授業の到達目標》

- 研究テーマにそって、研究計画を立てることができる。
- 研究方法を学び、科学的な調査・実験等の実施と結果の分析ができる。
- 研究の目的や研究方法を説明できる。
- 中間報告のレジュメを作成できる。
- 研究内容を口頭で説明することができる。（中間報告）

《成績評価の方法》

研究状況をレポートにして報告（60%）し、終了時には研究の中間発表（40%）を行う。100点満点で60点以上を合格とする。レポートについてはコメントを付して返却し、中間発表については要素別に評価し評価表を返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究の進め方、研究室の使い方などの説明と確認。研究テーマの決定方法と手順について理解する
2	問題意識と研究方法	研究のための基本的知識とスキルの確認。文献、先行研究検索の方法
3	研究テーマを見つける	先行研究検索
4	データ収集の方法	図書館において、文献検索、論文検索、入手方法などの研修
5	統計処理の方法（1）	統計手法の種類
6	統計処理の方法（2）	統計手法を用いて実際の統計処理を体験的に実習
7	結果の出力	グラフの書き方 グラフの種類
8	出力結果を読み取る	既存のデータを参考に、結果の読み方を学ぶ
9	研究計画の再考	各自の研究計画書の作成と提出
10	実験・調査の方法	各自の研究計画書に基づいて、実験や調査の計画作成、内容の決定及び作成
11	実験・調査の実際	実験や調査の依頼にあたり、文書作成
12	レジュメの作成方法	レジュメの作成例をもとに中間報告のための各自のレジュメを作成する
13	実験・調査の結果	実験や調査の途中経過、結果の入力状況の確認、報告内容の決定
14	発表	現在までの結果から分かったこと今後の進め方等について発表する
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる

《テキスト》

研究進度に応じて、適宜授業の中で指定する。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介する。

《授業時間外学習》

自分の興味関心の対象を明確にするため、関連の文献を検索し、読んでおく。研究内容をノートに整理し、研究状況の報告書を作成する。

《備考》

研究室を有効に活用し、主体的にできるだけ早く課題に取り組む。主体的に取り組むことの中には、積極的に相談することも含まれる。欠席等の連絡は必須。

科目名	卒業研究 I		科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	三宅 一郎			
授業方法	演習	単位・必修	3・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）			

《授業の概要》

(1)卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。(2)インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。(3)個別指導をおこなう。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。統計分析の基礎が身につく。

《参考図書》

「健康・スポーツ科学のための研究方法」出村慎一（杏林書院）「手ぎわよい科学論文の仕上げ方」田中 潔（共立出版株式会社）「Excelによる健康・スポーツ科学のためのデータ解析入門」（出村慎一他）

《授業時間外学習》

<予習方法> 与えられたテーマを文献研究等を通してまとめる能力を付けて欲しい。<復習方法> 学んだ内容のみならずその意味を理解し今後の研究活動を実践する能力を付けて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。レポートに対しコメントを付して返却すると共に随時個人指導を行う。研究態度・分析力等（60%）中間発表・中間報告書（40%）

《備考》

各自の研究は時間割に組まれている時間だけでなく、積極的に研究室に出向き電算機を使い研究を進めてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション、卒業研究の進め方	今後の卒業研究の進め方についてオリエンテーション。
2	テーマと研究計画について話し合う。	各自で興味を持ったテーマと研究計画を考える。
3	各自が決めた研究テーマについて	指導教官と具体的な計画を含めて考える。
4	各自で研究を進める	各自テーマに応じた文献を集めまとめる。
5	各自で研究を進める	各自テーマに応じた文献を集めまとめる。
6	各自で研究を進める	各自テーマに応じた文献を集めまとめる。
7	各自で研究を進める	各自文献研究を参考に具体的に研究計画をまとめる。
8	研究の途中経過発表(1)	各自の研究計画についてまとめ発表する。
9	各自で研究を進める	研究計画をより具体的に作る為、資料集めや予備実験をする。
10	各自で研究を進める	研究計画をより具体的に作る為、資料集めや予備実験をする。
11	各自で研究を進める	研究計画をより具体的に作る為、資料集めや予備実験をする。
12	各自で研究を進める	研究計画をより具体的に作る為、資料集めや予備実験をする。
13	各自で研究を進める	資料や予備実験を参考にし、研究計画を具体的にまとめる。
14	各自で研究を進める	各自の研究計画についてプレゼンテーションを行なう。
15	研究の途中経過発表(2)	各自の研究計画についてまとめ提出する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I		科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	木下 幸文			
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）			

《授業の概要》

研究実施計画・方法等の立案
 研究実施準備（課題に関連する分野の文献調査・予備研究等）
 関連する研究論文の輪読
 予備実験の実施研究の中間報告

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

その都度、適宜紹介する

《授業の到達目標》

卒業研究では、これまで学んできた知識をもとに、運動やスポーツに関する研究活動を通じて、より専門的な知識を深める。また、自ら問題を発見してその解決法を思考し、実際にその効果を確認するために実験を行いながら基本的な研究能力と問題解決能力を培うことが出来る。

《授業時間外学習》

研究内容について日々精査すること。

《成績評価の方法》

日々の卒業研究に取り組む姿勢（10%）と中間報告会（発表・抄録）の内容（90%）から判断する。中間報告会はルーブリックにより評価する。

《備考》

研究の内容や進捗状況によっては時間割外に勉強会を行う。時間割に設定された時間だけ行うのではなく、日常的に研究を遂行していくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究仮説の設定	研究の進め方について
2	研究仮説の設定	研究テーマの設定
3	研究仮説の設定	研究テーマの設定
4	研究仮説の設定	研究テーマの設定
5	研究仮説の設定	研究テーマの設定
6	研究仮説の設定	研究テーマの設定
7	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
8	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
9	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
10	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
11	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
12	研究のデザインを策定	研究内容（研究プログラム）の構築
13	実験（研究）の実行	各自で研究を進める（予備実験の実施）
14	実験（研究）の実行	各自で研究を進める（予備実験の実施）
15	研究成果報告	研究報告会（中間報告会）の実施

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I	科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	樽本 つぐみ		
授業方法	演習	単位・必選	3・必修
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

「健康」や「スポーツ」などに介在する「人」を中心に研究する。自ら問題を設定し、その問題解決に迫るための方法を見つける。方法を実行し検証しながら解答に導いてくる。それらを自分で行う。

《テキスト》

必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「卒業論文/修士論文の書き方」出村慎一・山次俊介
杏林書院

《授業の到達目標》

客観的な証拠に基づき問題点を検証する。
研究方法を選び実験や調査などで集めたデータから実証する。
論理的に結論を導く。
論文を作成し発表する。

《授業時間外学習》

各自のテーマに基づき、文献や資料を収集する。
研究経過をノートに記入する。

《成績評価の方法》

研究への取り組む姿勢（50%）
テーマ設定から実験までの中間報告（50%）
総合的に判断する。
分からないことは時間外で質問を受け付ける。
論文はコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究とは	研究を始める前に研究とはどのようなものか理解する。
2	研究に取り組む準備	研究に取り組むために必要な準備について理解する。
3	テーマと問題を見つける	問題とテーマを設定するとはどのように行うのか理解する。
4	問題を具体的にする	問題を具体的にするために原因と結果を考える。
5	仮説の設定	仮説を設定するために統計について理解する。
6	仮説の設定	仮説を設定する。
7	研究方法を選ぶ	研究の方法を理解しどのタイプで行うか決定する。
8	予備実験を行う	予備実験を行い報告する。
9	予備実験を行う	予備実験を行い報告する。
10	予備実験の報告	予備実験をまとめゼミで報告会をする。問題点等を見つけ予備実験を見直す。
11	予備実験の見直し	見直した内容についてゼミで報告会をする。
12	実験を行う	実験を行い報告する。
13	実験を行う	実験を行い報告する。
14	実験の報告	実験結果をまとめゼミで報告会をする。問題点等を見つけ実験を見直す。
15	実験の見直し	見直した内容について再度報告会をする。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I		科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	矢野 琢也			
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）			

《授業の概要》

リサーチ：課題の調査、プランニング：実行計画の立案、実行：予備調査も含めての活動、データ収集：根拠となりうる客観的情報を集める、まとめ：データを含めた目的とその結果についての論理的考察 *これらの一連の流れを理解し、実際に実行する為に必要な知識等を身につける。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

「医学統計の基礎のキソ1、2、3」浅井隆, ATMS出版

《授業の到達目標》

問題発見の能力、その為に必要な知識等の習得、実際の行動、これら全ての能力の育成と強化を目標とする。

《授業時間外学習》

課題作成のために図書館等で随時情報収集等を行うこと。

《成績評価の方法》

研究計画書の作成およびそれにいたるまでのディスカッションを評価対象とする。研究計画書の作成：80%、それに付随するレポート等：20%
不明な点等は、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

自らが課題を決定することから、積極的に学ぶ姿勢が必要です。スポーツのトレーニング分野における課題が中心となります。基本的には、測定等で客観的データを収集します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究に関する必要な情報や方法、考え方を紹介します
2	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
3	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
4	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
5	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
6	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
7	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
8	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
9	研究課題の検討および実行	研究テーマの候補を絞り、より具体的にその内容について検討します。
10	研究課題の検討および実行	研究テーマの候補を絞り、より具体的にその内容について検討します。
11	研究課題の検討および実行	研究テーマの候補を絞り、より具体的にその内容について検討します。
12	研究課題の検討および実行	研究計画に立案および、実施にあたっての予備的調査
13	研究課題の検討および実行	研究計画に立案および、実施にあたっての予備的調査
14	研究課題の検討および実行	研究計画に立案および、実施にあたっての予備的調査
15	研究課題の決定	研究計画の設定、および予備的調査の結果報告

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I		科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	加藤 和代			
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）			

《授業の概要》

これまで学んだ心と体の健康科学の理論をもとに、自分が関心を持つ社会や教育の事象に目を向け、研究テーマや研究課題を設定する。

テーマに沿った研究方法を学び、先行研究など必要な文献資料を収集・分析し、計画的に自ら探求して研究を進める。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

- 必要な研究資料、情報の収集ができる
- 問題意識に基づいて明らかにしたいことを明確にできる
- 研究方法に沿った研究計画を立てることができる
- 研究テーマ、内容に沿った先行研究・文献等の資料から意味や問題を読み取ることができる

《授業時間外学習》

研究の進捗状況を作成し、毎授業日に発表すること。

《成績評価の方法》

研究姿勢、進捗状況（50%）、中間発表（50%）
レポートは評価コメントを加えて返却する。

《備考》

アクティブラーニングゾーンを利用することもある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ゼミの運営方法、研究の進め方
2	研究の理解	研究の基本的知識、研究論文の構成
3	データ収集方法	先行研究論文・文献等の検索 情報の整理
4	先行研究論文の分析	研究テーマに関連する先行研究論文の経過や結果を読み取る
5	先行研究論文の分析	研究テーマに関連する先行研究論文の経過や結果を読み取る
6	研究テーマの最終決定	研究テーマ、研究目的、研究方法の決定
7	研究計画の作成	経過報告、検討
8	研究計画の作成	経過報告、検討
9	データ収集の方法	各自の研究内容に合わせ、質問紙調査、実験等の内容や計画を作成
10	データ収集の方法	各自の研究内容に合わせ、質問紙調査、実験等の内容や計画を作成
11	データ処理の方法	データ処理（統計処理）の理解
12	データ処理の方法	データ処理（統計処理）の理解
13	中間報告書の作成	研究目的、研究内容、研究計画等の検討、先行研究論文等の資料作成
14	中間報告書の作成	研究目的、研究内容、研究計画等の検討、先行研究論文等の資料作成
15	中間報告	中間報告会の実施

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I		科目ナンバリング	H3DD14001	
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）			

《授業の概要》

研究とはいかなるものか、どのように進めていくかを理解するとともに、実践していく力を養う。研究テーマを決定し、研究目的を明らかにし、研究の円滑な推進に必要な準備を行っていく。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 疫学概念を理解する。
- 2 研究の手法を理解し実践できるようになる。
- 3 研究に必要な文献を渉猟し、その内容を理解する。

《授業時間外学習》

- 1 研究に必要な文献、資料等を積極的に渉猟する。
- 2 常に、自分の研究の論理、仮説等を考える。

《成績評価の方法》

- 1 平常点（研究意欲、進捗状況）50%
- 2 中間報告50%

毎回作成された原稿の修正・指導を行う。

《備考》

卒業研究は講義と異なり、所要時間が決まっておらず、その週における目標が達成されるまでは終了しないため、少なくとも毎週講義2時間分（90分×2）は必要とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション・研究の進め方の説明	疫学的研究とはどのように行うものなのか、今後、卒業研究で何を行っていくのかを理解する。
2	研究テーマの決定	今年度行っていく卒業研究のテーマを決定し、研究の方向性の概略を示す。
3	研究目的の決定・研究の設計	研究の目的を明確にし、目的達成のために必要な研究手法を理解する。
4	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
5	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
6	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
7	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
8	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
9	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
10	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
11	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
12	研究の設計・資料収集	調査項目を具体的に検討するとともに、研究に関連する文献や先行研究を入手する。
13	研究結果の解析	アンケート調査等により得られたデータをコンピューター(excelシート)に入力する。
14	研究結果の解析	ピボットテーブルを用いてクロス集計を行う。
15	中間報告レポートのまとめ	第1-14週にかけて行ってきたこと（目的、対象、方法、参考文献）を中間報告としてまとめる。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I		科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	古田 薫			
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）			

《授業の概要》

各自の興味関心や問題意識に沿った課題を設定し、必要な情報を収集・分析し、客観的根拠に基づいた考察を行い、結論を導き、論文という形態で表現し、プレゼンテーションで情報発信するという一連の過程を通じて、4年間の学習成果をまとめることを目的とする。ゼミでの交流により、相互の学習内容の深化と、学習方法のブラッシュアップを図る。

《授業の到達目標》

- 必要に応じた情報の検索、収集、選択ができる。
- 目的に応じた適切な方法で情報を分析することができる。
- 論理的思考に基づいた、客観的な考察を行うことができる。
- 論文の作成方法を理解し、正しい形式の論文をまとめることができる。
- 他の人の意見に耳を傾け、自分の意見を発表できる。
- 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

《成績評価の方法》

研究姿勢、進捗状況 30%、ゼミへの貢献度 10%
 論文の完成度 50%、プレゼンテーション 10%
 ※面談・個別指導によって進捗状況を確認し、設定目標及び研究方法の修正を行う。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

白井 利明・高橋 一郎『よくわかる卒論の書き方（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）』ミネルヴァ書房、2013年。
 酒井 隆『図解 アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2012年。

《授業時間外学習》

各自で研究を推進し、ゼミでの発表に向けてレジュメにまとめること

《備考》

時間割に設定された時間以外にもゼミを行う場合がある。予定の確認を怠らないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	論文完成までのステップ、情報の整理、アイデアの管理、研究の進め方、ゼミの運営について
2	卒論構想の発表 1	テーマ（仮題）と研究計画（目的、方法、予定）について発表する。
3	卒論構想の発表 2	テーマ（仮題）と研究計画（目的、方法、予定）について発表する。
4	論文の枠組み設定 1	仮の目次を作成し、必要な情報を整理する。
5	論文の枠組み設定 2	仮の目次を作成し、必要な情報を整理する。
6	研究の目的と先行研究 1	先行研究の論文の到達地点と課題を整理し、研究の目的を明確にして発表する。
7	研究の目的と先行研究 2	先行研究の論文の到達地点と課題を整理し、研究の目的を明確にして発表する。
8	研究方法 1	どのような研究方法を用いるのかを検討し、具体的な手立てを考えて発表する。
9	研究方法 2	どのような研究方法を用いるのかを検討し、具体的な手立てを考えて発表する。
10	研究発表 1	研究の進捗状況を報告する。
11	研究発表 2	研究の進捗状況を報告する。
12	研究発表 3	研究の進捗状況を報告する。
13	研究発表 4	研究の進捗状況を報告する。
14	中間発表会	I期で得られた成果をレポートにまとめ、プレゼンテーションを行う。
15	まとめ	I期の成果を振り返り、II期に向けて研究計画を見直す。

科目名	卒業研究 I	科目ナンバリング	H3DD14001
担当者氏名	河野 稔		
授業方法	演習	単位・必選	3・必修
		開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

これまでの学修の集大成となる卒業研究において、先行研究や文献・資料の収集、資料の作成、調査・実験などの研究活動を行う上で基盤となる、研究手法の基礎について学ぶ。具体的には、各自のテーマに沿って、ICT（情報通信技術）を活用した研究活動、さまざまなデータの統計的分析の基礎を実践的に習得する。

《授業の到達目標》

- 研究テーマに沿って、先行研究や各種資料を収集できる。
- 統計的手法を用いて、各種の調査・実験を実施し、結果を分析できる。
- ICTを活用して、資料や調査・実験結果をまとめ、効果的に説明できる。

《成績評価の方法》

文献・資料の調査結果の提出物（50%）と中間報告書（50%）で評価する。
 なお、提出物にはコメントを付して返却するとともに、ゼミの時間やオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	進め方の説明
2	文献・資料の調査(1)	アイデアの発散・収束・整理、テーマの絞り込み
3	文献・資料の調査(2)	図書館を活用した文献・資料の調査
4	文献・資料の調査(3)	学術情報データベースを活用した文献や資料の調査
5	文献・資料の調査(4)	調査した文献や資料の整理とその活用
6	統計的手法の利用(1)	記述統計（代表値と散布度）
7	統計的手法の利用(2)	記述統計（相関と回帰）
8	統計的手法の利用(3)	推測統計（区間推定、仮説検定の基礎）
9	統計的手法の利用(4)	推測統計（パラメトリックな検定手法）
10	統計的手法の利用(5)	推測統計（ノンパラメトリックな検定手法）
11	レジュメの作成(1)	レジュメ（中間報告書）作成上の注意事項、レジュメに必要な情報の整理
12	レジュメの作成(2)	レジュメの作成
13	レジュメの作成(3)	レジュメの作成と自己添削
14	レジュメの作成(4)	レジュメの完成
15	まとめ	全体の学習のふり返り

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

- 白井利明・高橋一郎(2013)『よくわかる卒論の書き方 [第2版]』ミネルヴァ書房
- 浦上昌則・脇田貴文(2008)『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』東京図書
- その他、参考となる文献や資料は適宜紹介する。

《授業時間外学習》

各自のテーマについて、先行・関連研究を読み込み、その研究内容や手法について理解し、疑問点などを整理しておくこと。学習内容をノートなどに記録し、自らのテーマに活用できるように、実践的を通して習得しておくこと。

《備考》

テーマの分野に関係なく、卒業研究に取り組む上で共通して必要となる知識や技能の習得を目指す。主体的な取り組みを期待する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ	科目ナンバリング	H3DD14002
担当者氏名	徳田 泰伸		
授業方法	演習	単位・必選	3・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 科学的根拠となるデータ・情報を収集する（情報収集力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

(1)卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。(2)インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。(3)個別指導をおこなう。

《テキスト》

その都度指示する

《参考図書》

授業で紹介する

《授業の到達目標》

自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。統計分析の基礎が身につく

《授業時間外学習》

話し合った課題・問題等について文献資料等十分に収集し読み分析し次回までにまとめておく

《成績評価の方法》

研究態度・分析力等（60%）、研究論文・発表（40%）
 中間発表や中間報告は用紙にコメントを付して返却する。
 研究論文・発表の予行には個別対応の時間を設ける。

《備考》

自らの課題に責任をもち、積極的に学ぶ姿勢が必要。
 日常的に研究を遂行し研究室を有効に活用して下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	イントロダクション、卒業研究の進め方
2	研究計画	テーマと研究計画について話し合う
3	研究テーマ	各自が決めた研究テーマについて、指導教官と具体的な計画を話し合う
4	研究	各自で研究を進める
5	研究	各自で研究を進める
6	研究	各自で研究を進める
7	研究	各自で研究を進める
8	研究の途中経過発表（1）	研究の途中経過発表（1）
9	研究	各自で研究を進める
10	研究	各自で研究を進める
11	研究	各自で研究を進める
12	研究	各自で研究を進める
13	発表①	プレゼンテーションの予行と論文作成を行う
14	発表②	プレゼンテーションの予行と論文作成を行う
15	卒業論文発表	発表のふり返りと再考

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ	科目ナンバリング	H3DD14002
担当者氏名	大平 曜子		
授業方法	演習	単位・必選	3・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）		

《授業の概要》

これまで収集した文献や資料を有効に利用し、仮説・分析・考察といった、知的活動を通じて、研究の流れを学びます。ゼミ内での意見交換は研究を客観的にみるうえで有効です。

手続きとして実験や調査などの実証的方法を用いますが、統計的データ分析の手法を理解し、科学性、公共性、倫理性など研究として成立するための諸条件についても理解したうえで、論文を完成させていきます。

《授業の到達目標》

- 研究計画にそって、研究を進めることができる。
- 科学的な研究方法をとり、調査・実験等の結果を有効に利用できる。
- 研究の目的や研究方法を説明できる。
- 最終報告のレジュメを作成する。
- 研究の概要をプレゼンテーションできる。

《成績評価の方法》

研究状況を毎回レポートにして報告（20%）、論文の提出（40%）、最終の卒業研究発表会で発表する（40%）100点満点で60点以上を合格とする。研究発表終了後、最終コメントを別紙にて返却する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	卒業研究Ⅰの内容のまとめ 夏季休暇中の進捗状況の確認と今後の計画の修正
2	データの入力	データ集約
3	結果の出力	論文掲載のための結果出力
4	データの分析	論文完成までの間、データ分析を継続
5	論文作成 1章	論文の構成を考え、執筆に取り掛かる
6	論文作成 2章	論文の構成を考え、執筆に取り掛かる
7	論文作成 3章	論文の構成を考え、執筆に取り掛かる
8	論文作成 4章 まとめ	論文の構成を考え、執筆に取り掛かる
9	論文の構成の見直し	論文の全体構成を確認し、修正を加える
10	草稿提出	目次、参考文献、資料等を整理し、添付して体裁を整える
11	校正 レジュメ作成	レジュメを作成し、同時には発表原稿を作成する
12	発表用のスライド作成	パワーポイントの操作に習熟する
13	発表①	プレゼンテーションの実際を体験し、また、発表者相互に学び合う
14	発表②	プレゼンテーションの実際を体験し、また、発表者相互に学び合う
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、自己の成果を具体的に説明する

《テキスト》

研究進度に応じて、適宜授業の中で指示する。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介する。

《授業時間外学習》

文献検索や調査・実験など各自の研究方法に基づく研究の推進。
研究内容をノートに整理し、論文にまとめていく。

《備考》

研究室を有効に活用し、主体的にできるだけ早く課題に取り掛かる。主体的に取り組むことの中には、積極的に相談することも含まれる。欠席等の連絡は必須。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ	科目ナンバリング	H3DD14002
担当者氏名	三宅 一郎		
授業方法	演習	単位・必選	3・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識）		

《授業の概要》

- (1) 卒業研究は毎週、パソコンを使用して統計資料の入力と統計分析をおこなう。
- (2) インターネットを利用し、統計資料の収集をおこなう。
- (3) 個別指導をおこなう。

《授業の到達目標》

自分で考える力を養う。電算機を使う仕事に自信を持てる技術を身につける。統計分析の基礎が身につく。発表能力を身につける。報告書作成方法を習得する。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。レポートに対しコメントを付して返却すると共に随時個人指導を行う。
 研究態度・分析力等（60%）
 論文作成・プレゼンテーション能力（40%）

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

- 「健康・スポーツ科学のための研究方法」 出村慎一（杏林書院）
- 「手ぎわよい科学論文の仕上げ方」 田中 潔（共立出版株式会社）
- 「Excelによる健康・スポーツ科学のためのデータ解析入門」（出村慎一他）

《授業時間外学習》

- <予習方法>
与えられたテーマを文献研究等を通してまとめる能力を付けて欲しい。
- <復習方法>
学んだ内容のみならずその意味を理解し今後の研究活動を実践する能力を付けて欲しい。

《備考》

各自の研究は時間割に組まれている時間だけでなく、積極的に研究室に出向き電算機を使い研究を進めてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の問題点について話し合い	卒業研究Ⅰでまとめた研究計画を実施する。
2	各自で研究を進める	卒業研究Ⅰでまとめた研究計画を実施する。
3	各自で研究を進める	指導教官と具体的な研究計画を最終確認する。
4	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
5	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
6	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
7	各自で研究を進める	各自が研究計画を基に調査、実験、集計、分析を実施。
8	中間発表(1)、各自で研究を進める	これまでの調査、実験、集計、分析、結果を報告する。
9	中間発表(2)、各自で卒論の作成をおこなう	卒業論文を具体的にまとめる。
10	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
11	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
12	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
13	卒論の作成	卒業論文を具体的にまとめる。
14	卒業研究発表会の準備と事前発表会	卒業論文発表資料作成。
15	卒業研究の発表会	卒業論文を発表する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ	科目ナンバリング	H3DD14002
担当者氏名	木下 幸文		
授業方法	演習	単位・必修	3・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）		

《授業の概要》

各自のテーマに沿った実験の実施および各指標の測定とその分析
 卒業研究論文の作成
 最終成果報告として卒業論文発表会の実施

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

その都度、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

卒業研究では、これまで学んできた知識をもとにして、運動やスポーツに関する研究活動を通じ、より専門的な知識を深める。また、自ら問題を発見してその解決法を思考し、実際にその効果を確認するための実験を行いながら基本的な研究能力と問題解決能力を培うことができる。

《授業時間外学習》

研究内容について日々精査すること。
 日常的に研究に関する資料を収集して精読し、卒業研究活動が効率よく行えるようにしておくこと。

《成績評価の方法》

「授業の到達目標」を踏まえた上で、卒業論文と卒業研究発表会（80%）、日々の研究に臨む姿勢（20%）より評価する。
 プレゼンテーションは、ルーブリックを用いて評価していく。

《備考》

研究の内容や進捗状況によって時間割外に勉強会を実施する。
 時間割に設定された時間だけで行うのではなく、日常的に研究を遂行していくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
2	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
3	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
4	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
5	実験（研究）の実行	各自で実験（研究）を進める
6	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
7	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
8	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
9	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
10	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
11	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
12	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成
13	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成（研究報告会の抄録および資料の作成）
14	実験の検証	各自の実験結果に対する検証と考察 卒業研究論文の作成（研究報告会の抄録および資料の作成）
15	卒業研究報告会	研究プレゼンテーションによる情報の発信と卒業研究論文の再考

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ		科目ナンバリング	H3DD14002	
担当者氏名	樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

「健康」や「スポーツ」などに介在する「人」を中心に研究する。自ら問題を設定し、その問題解決に迫るための方法を見つける。方法を実行し検証しながら解答に導いてくる。それらを自分で行う。

《テキスト》

必要に応じて資料を配付する。

《参考図書》

「卒業論文/修士論文の書き方」出村慎一・山次俊介
杏林書院

《授業の到達目標》

客観的な証拠に基づき問題点を検証する。
研究方法を選び実験や調査などで集めたデータから実証する。
論理的に結論を導く。
論文を作成し発表する。

《授業時間外学習》

各自のテーマに基づき、文献や資料を収集する。
研究経過をノートに記入する。

《成績評価の方法》

研究への取り組む姿勢（30%）
論文を作成し口頭発表を行う。（70%）
総合的に判断する。
論文はコメントを付して返却する。
分からないことは時間外で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業論文とは	論文の書き方について理解する。
2	論文に取りかかる準備	論文の書式や構成について理解する。
3	本実験を行う	実験を行う。
4	本実験を行う	実験を行う。
5	データを整理する	実験結果をまとめ検証する。データ処理をする。
6	データの間係を分析する	データを分析する。
7	論文を作成する (目次・序論)	論文の作成
8	論文を作成する (先行研究・目的方法)	論文の作成
9	論文を作成する (結果・考察)	論文の作成
10	論文を作成する (結論・課題)	論文の作成
11	論文を作成する (引用文献他)	論文の作成
12	口頭発表の準備 レジュメ作成	発表の準備をする。
13	口頭発表の準備	発表の準備・練習をする。
14	発表	発表する。
15	まとめ	研究・論文・発表についてまとめ反省する。

科目名	卒業研究Ⅱ		科目ナンバリング	H3DD14002	
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる (情報発信力) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合) ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 (生涯学習力) ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる (専門的知識) ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する (統合的技術力)				

《授業の概要》

リサーチ：課題の調査、プランニング：実行計画の立案、実行：予備調査も含めての活動、データ収集：根拠となりうる客観的情報を集める、まとめ：データを含めた目的とその結果についての論理的考察 *これらの一連の流れを理解し、実際に実行する為に必要な知識等を身につける。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

「医学統計の基礎のキソ1、2、3」浅井隆, ATMS出版

《授業の到達目標》

問題発見の能力、その為に必要な知識等の習得、実際の行動、これら全ての能力の育成と強化を目標とする。その結果として論文を作成し発表する。

《授業時間外学習》

課題作成のために図書館等で随時情報収集等を行うこと。

《成績評価の方法》

研究計画書の作成およびそれにいたるまでのディスカッションを評価対象とする。研究計画書の作成：80%、それに付随するレポート等：20%
不明な点等は、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

自らが課題を決定することから、積極的に学ぶ姿勢が必要です。スポーツのトレーニング分野における課題が中心となります。基本的には、測定等で客観的データを収集します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究に関する必要な情報や方法、考え方を紹介します
2	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
3	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
4	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
5	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
6	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
7	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
8	研究課題の検討	研究テーマの候補を作成し、その内容について検討します。
9	研究課題の検討および実行	研究テーマの候補を絞り、より具体的にその内容について検討します。
10	研究課題の検討および実行	研究テーマの候補を絞り、より具体的にその内容について検討します。
11	研究課題の検討および実行	研究テーマの候補を絞り、より具体的にその内容について検討します。
12	研究課題の検討および論文作成	研究テーマのまとめとして論文の作成を行う。
13	研究課題の検討および論文作成	研究テーマのまとめとして論文の作成を行う。
14	研究課題の検討および論文作成	研究テーマのまとめとして論文の作成を行う。
15	論文作成および発表	研究テーマのまとめとして論文の作成を行い、結果を発表する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ	科目ナンバリング	H3DD14002
担当者氏名	加藤 和代		
授業方法	演習	単位・必修	3・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる (情報発信力) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合) ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 (生涯学習力) ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる (専門的知識) ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する (統合的技術力)		

《授業の概要》

研究テーマに沿って、取り組み、検証していくなどの研究過程は、柔軟な発想と積極性があれば面白みも見いだせる。

研究論文を書き上げ、発表を行うことは、大学4年間の学びの集大成であり、最も自分を成長させる場となる。

併せて卒業後社会に貢献できる多面的な応用能力の養成も目指す。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

各自の研究テーマに合わせて、必要な文献等をその都度紹介する。

《授業の到達目標》

○データを統計的に分析し、先行研究と比較して論理的に考察することができる。

○研究成果を研究論文としてまとめることができる。

○研究発表会で、研究の概要をわかりやすく適切に伝えることができる。

《授業時間外学習》

研究の進捗状況を毎授業日に提出すること。

《成績評価の方法》

研究姿勢、進捗状況 (30%)、研究論文 (40%)、研究発表 (30%)

論文は評価コメントを加え返却する。

《備考》

アクティブラーニングゾーンを利用することもある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究計画確認、進捗状況の確認、研究のまとめ方
2	統計処理	質問紙等調査実施、データ入力
3	統計処理	質問紙等調査実施、データ入力
4	統計分析	記述統計、検定、解析、グラフ作成
5	統計分析	記述統計、検定、解析、グラフ作成
6	卒業論文の作成	研究のまとめ方、研究論文の構成、章立て及びその内容
7	卒業論文の作成	論文の作成と添削
8	卒業論文の作成	論文の作成と添削
9	卒業論文の作成	論文の作成と添削
10	卒業論文の作成	論文の作成と添削
11	卒業論文の提出	論文の仕上げ
12	研究発表会の準備	研究要約の作成、パワーポイントスライド作成
13	研究発表会準備	研究要約の作成、パワーポイントスライド作成、プレゼンテーションリハーサル
14	研究発表会	研究発表
15	まとめ	発表の振り返り、論文修正

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ		科目ナンバリング	H3DD14002	
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる（情報発信力） ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく（知識の統合） ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度（生涯学習力） ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる（専門的知識） ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する（統合的技術力）				

《授業の概要》

研究を行う上で必須である基本的な手技を身につける。研究により得られたデータを分析し、その内容からどのような所見が導き出せるか、先行研究等と比較してどのような状況にあるか等を考察し結論を導き出す。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 研究データを正確に分析する能力を身につける。
- 2 分析結果と先行研究の結果との比較を行う能力を身につける。
- 3 分析結果から正しい結論を導き出す能力を身につける。

《授業時間外学習》

- 1 研究に必要な文献、資料等を積極的に渉猟する。
- 2 常に、自分の研究の論理、仮説等を考える。

《成績評価の方法》

- 1 平常点（研究意欲、進捗状況）40%
- 2 作成論文60%

毎回作成された原稿の修正・指導を行う。

《備考》

卒業研究は講義と異なり、所要時間が決まっておらず、その週における目標が達成されるまでは終了しないため、少なくとも毎週講義2時間分（90分×2）は必要とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究結果の解析	クロス集計を基に解析した結果を示すグラフを作成する。
2	研究結果の解析	クロス集計を基に解析した結果を示すグラフを作成する。
3	研究結果の解析	SPSSを用いてカテゴリー間の頻度の差に関する有意差検定を行う。
4	研究結果の解析	研究を行うに当たり、その背景となった事項や研究目的を記載する。必要な参考文献を検索する。
5	研究結果の解析	研究を行うに当たり、その背景となった事項や研究目的を記載する。必要な参考文献を検索する。
6	研究論文作成	どのような対象者を用いたか、どのようにして結果を得て解析したかを記載する。
7	研究論文作成	研究結果を客観的に記載する。結果に対応する図表に番号を付けて、本文にも記入する。
8	研究論文作成	研究結果を客観的に記載する。結果に対応する図表に番号を付けて、本文にも記入する。
9	研究論文作成	研究結果から明らかにされたことについて、先行研究との比較などをしながら考察を行う。
10	研究論文作成	研究結果から明らかにされたことについて、先行研究との比較などをしながら考察を行う。
11	研究論文作成	研究結果から明らかにされたことについて、先行研究との比較などをしながら考察を行う。
12	研究論文作成	研究結果から明らかにされたことについて、先行研究との比較などをしながら考察を行う。
13	卒業論文提出	卒業論文を完成させて提出する。
14	卒業研究発表の準備	卒業論文発表用の要旨を完成させるとともに、発表媒体（パワーポイント等）を完成させる。
15	卒業研究の発表	卒業論文発表用の原稿を完成させ、その内容の概要を把握する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ		科目ナンバリング	H3DD14002	
担当者氏名	古田 薫				
授業方法	演習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる (情報発信力) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合) ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 (生涯学習力) ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる (専門的知識) ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する (統合的技術力)				

《授業の概要》

各自の興味関心や問題意識に沿った課題を設定し、必要な情報を収集・分析し、客観的根拠に基づいた考察を行い、結論を導き、論文という形態で表現し、プレゼンテーションで情報発信するという一連の過程を通じて、4年間の学習成果をまとめることを目的とする。ゼミでの交流により、相互の学習内容の深化と、学習方法のブラッシュアップを図る。

《授業の到達目標》

- 必要に応じた情報の検索、収集、選択ができる。
- 目的に応じた適切な方法で情報を分析することができる。
- 論理的思考に基づいた、客観的な考察を行うことができる。
- 論文の作成方法を理解し、正しい形式の論文をまとめることができる。
- 他の人の意見に耳を傾け、自分の意見を発表できる。
- 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

《成績評価の方法》

研究姿勢、進捗状況 30%、ゼミへの貢献度 10%
 論文の完成度 50%、プレゼンテーション 10%
 ※面談・個別指導によって進捗状況を確認し、論文完成に向けて必要なステップの自覚を促す。

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

白井 利明・高橋 一郎『よくわかる卒論の書き方 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)』ミネルヴァ書房、2013年。
 酒井 隆『図解 アンケート調査と統計解析がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2012年。

《授業時間外学習》

各自で研究を推進し、ゼミでの発表に向けてレジュメにまとめること

《備考》

時間割に設定された時間以外にもゼミを行う場合がある。予定の確認を怠らないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究発表 1	夏休み中の進捗状況とⅡ期の研究計画について報告する。
2	研究発表 2	データや情報の分析結果について発表する。
3	研究発表 3	データや情報の分析結果について発表する。
4	研究発表 4	考察と結論について発表する。
5	研究発表 5	考察と結論について発表する。
6	卒業論文の作成と相互批評 1	卒業論文を執筆し、進捗状況を報告する。相互批評を行い、修正する。
7	卒業論文の作成と相互批評 2	卒業論文を執筆し、進捗状況を報告する。相互批評を行い、修正する。
8	卒業論文の作成と相互批評 3	卒業論文を執筆し、進捗状況を報告する。相互批評を行い、修正する。
9	卒業論文の作成と相互批評 4	卒業論文を執筆し、進捗状況を報告する。相互批評を行い、修正する。
10	論文の草稿提出	草稿を提出し、相互批評および添削を行う。
11	論文の完成と提出	論文の最終チェックを行い、完成させる。論文を提出する。
12	プレゼンテーション準備	卒業研究発表会に向けて、資料とスライドを作成する。
13	卒業研究発表会準備 1	プレゼンテーションの予行とブラッシュアップを行い、発表会に備える。
14	卒業研究発表会準備 2	プレゼンテーションの予行とブラッシュアップを行い、発表会に備える。
15	卒業研究発表会	卒業研究で得られた成果のプレゼンテーションを行う。

科目名	卒業研究Ⅱ	科目ナンバリング	H3DD14002
担当者氏名	河野 稔		
授業方法	演習	単位・必選	3・必修
		開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 問題解決に向けて効果的な情報提供ができる (情報発信力) ○ 2-2 複合的に絡み合う問題に気づく (知識の統合) ○ 2-5 新しい情報の把握と状況の変化に鋭敏に反応し、学び続ける態度 (生涯学習力) ○ 3-1 人間を理解し、適切な指導ができる (専門的知識) ○ 3-4 課題解決のためのプログラムを構築する (統合的技術力)		

《授業の概要》

これまでの学修の集大成となる卒業研究において、先行研究や文献・資料の収集、資料の作成、調査・実験などの研究活動を行う上で必要となる、研究手法の活用について学ぶ。
 具体的には、各自のテーマに沿って、さまざまな統計的手法とICT (情報通信技術) を適切に活用し、卒業論文をまとめ上げるための知識や技能を、実践を通じて習得する。

《授業の到達目標》

- 研究テーマに沿って、必要な文献や各種資料を収集できる。
- 統計的手法とICTを用いて、調査・実験を計画・実施し、適切に分析できる。
- ICTを活用して、論文や口頭発表の資料をまとめることができる。

《成績評価の方法》

ゼミ時間での提出物 (20%) と卒業論文 (40%) と口頭発表の内容 (40%) で評価する。
 なお、提出物にはコメントを付して返却するとともに、ゼミの時間やオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	進め方の説明、研究経過の報告
2	調査・実験結果の活用(1)	表計算ソフトを利用した結果データの整理
3	調査・実験結果の活用(2)	表計算ソフトや統計分析ソフトを利用した結果データの分析
4	調査・実験結果の活用(3)	表計算ソフトや統計分析ソフトを利用した結果データの分析
5	調査・実験結果の活用(4)	分析結果のワープロやプレゼンテーションソフトでの利用
6	卒業論文の作成(1)	ワープロを利用した論文作成
7	卒業論文の作成(2)	卒業論文の作成
8	卒業論文の作成(3)	卒業論文の作成と添削
9	卒業論文の作成(4)	卒業論文の作成と添削
10	卒業論文の作成(5)	卒業論文の仕上げ、卒業論文の提出
11	研究成果の発表の準備(1)	抄録 (レジюме) の作成と添削
12	研究成果の発表の準備(2)	口頭発表用資料 (スライド) の作成と添削
13	研究成果の発表の準備(3)	口頭発表用資料 (スライド) の作成と添削
14	卒業研究の発表会	卒業研究の口頭発表
15	まとめ	全体のふり返り

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

- 松井豊 (2010) 『改訂版 心理学論文の書き方-卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新社
 - 出村慎一監修 佐藤進・山次俊介・長澤吉則編 (2007) 『健康・スポーツ科学のためのSPSSによる統計解析入門』杏林書院
- その他、参考となる文献や資料は、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

先行・関連研究で用いられた情報や手法などへの理解を進め、自らの研究にどのように適用するかを検討しておくこと。
 研究計画に基づいて、研究活動を自主的に進め、その状況や調査・実験の結果を逐一を記録し整理しておくこと。

《備考》

テーマの分野に関係なく、卒業研究に取り組む上で共通して必要となる知識や技能の習得を目指す。主体的な取り組みを期待する。

《教職に関する科目》

科目名	中学校教育実習	科目ナンバリング	HTHH44011		
担当者氏名	大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止むを得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価（教育実習成績報告書）における「総合評価」（20％）教育実習記録（実習ノート）（40％）事前事後指導での活動（40％）。質問等は各教員のオフィスアワー時に受け付ける。

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『（各教科等の）学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法>兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。<復習方法>学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	中学校教育実習	科目ナンバリング	HTHH44011		
担当者氏名	大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止むを得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価（教育実習成績報告書）における「総合評価」（20％）教育実習記録（実習ノート）（40％）事前事後指導での活動（40％）。質問等は各教員のオフィスアワー時に受け付ける。

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『（各教科等の）学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法>兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。<復習方法>学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習	科目ナンバリング	HTHH44010		
担当者氏名	大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価（教育実習成績報告書）における「総合評価」（20％）教育実習記録（実習ノート）（40％）事前事後指導での活動（40％）。質問等は各教員のオフィスアワー時に受け付ける。

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『（各教科等の）学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法>兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。<復習方法>学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	高等学校教育実習	科目ナンバリング	HTHH44010		
担当者氏名	大平 曜子、木下 幸文				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育実習は、大学で学んだ知識、理論あるいは技術を教育実践の場で具体的に展開させる能力を養うものである。実際の授業や生徒指導を行うことを通じて、今まで学んだ理論や知識を結びつけて、生き生きとした教育を展開することが期待される。教育現場実習およびその事前事後指導を通じて、今後の学校教育や教師の課題を認識するとともに、その後の学部における教育活動に十分役立つようにすることを目的としている。

《授業の到達目標》

教育現場実習における事前指導では、実習にできるだけ抵抗感なく臨めるようにするとともに、教育実習に際して求められる必要不可欠な基礎的な事柄を確実に身につけることが出来る。教育実習の事後指導では、教育実習を通して学んだことを、教育実習前の自己の教育観、学校観、生徒観等と対比させながら、適正な自己評価と反省を踏まえて、今後の学校教育や教師の課題を認識することが出来るようになる。

《成績評価の方法》

基本的に欠席は認めない。ただし止む得ない事情の時は必ず事前に連絡すること。教育現場実習校による評価（教育実習成績報告書）における「総合評価」（20％）教育実習記録（実習ノート）（40％）事前事後指導での活動（40％）。質問等は各教員のオフィスアワー時に受け付ける。

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」その他、適宜紹介する

《参考図書》

文部科学省『中学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局文部科学省『（各教科等の）学習指導要領解説編』東山書房

《授業時間外学習》

<予習方法>兵庫大学健康システム学科「教育実習の手引き」を熟読し、内容の理解する。内容時によってはその時の対応や対処方法を考えまとめておく。<復習方法>学んだ内容のみならずその意味を理解し実習に備える能力を付けることを望む。

《備考》

履修要件を満たさなければ受講出来ない（介護等体験は終了済のこと）。教職免許取得の意志を明確にして主体的に取り組み、教諭を目指す学生としての自覚と誇りをもって臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育実習の心得や注意事項について理解する
2	教育実習の意義と目的	教育実習の意義や教育実習で学習する内容について説明することが出来る
3	教育実習への取り組み方	教育実習校への挨拶、面接、実習上の諸注意などについて理解する
4	学習指導案の作成演習	実習課題の明確化とその方法について
5	授業の教材研究・学習指導案の作成等	模擬授業の実施とその評価、学習指導案の作成について理解する
6	教育実習校でのオリエンテーション	指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等
7	教育現場実習1	体育・保健学習の実施（指導案の作成、教材作成）
8	教育現場実習2	学校における教育活動全般の理解、学んだことの実践
9	教育現場実習3	実践的指導能力の基礎を築くとともに教師としての資質を養う
10	教育現場実習4	実習による理論と技術の再構築および適性の検証
11	事後指導	実習終了後の処理、礼状の作成
12	事後研究1	教育現場実習の自己評価と反省
13	事後研究2	教育現場実習の自己評価と課題の確認
14	実習成果報告	教育実習で得られた知見や学習したことを整理して説明することが出来る
15	教育実習のまとめと反省	これまでの教育実習や事前事後指導で得られた知見について再確認し、その具体的な成果について説明することが出来る

《教職に関する科目》

科目名	養護実習	科目ナンバリング	HTY044002
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代、米野 吉則		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	4年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

養護実習は、これまでの専門知識や理論、技術や感性を、実践の場で展開していく、教職免許取得において重要な実習です。養護教諭の専門とする職務内容と、教師として知っておくべき事柄を再確認し、実習目的および各自の目標を明確に定め、実習校に赴きます。本科目は、事前指導から事後指導まで、全過程を終了した時点で評価します。事後には実習における学びと課題を明らかにして報告会を開催します。

《授業の到達目標》

- 養護実習の手引の目標を理解し、自らの目標に反映できる。
- 養護教諭にとって必要な知識技術がわかり、その修得状況を確認できる。
- 定めた実習目標を達成すべく実習全般を通して取り組み、自分で自己評価ができる。
- 実習ノートの記載、事後の報告会のレジュメの作成、そして口頭発表まで、正確に情報発信ができる。

《成績評価の方法》

やむを得ない場合を除き、欠席はいつさい認めません。実習校評価(20%)、養護実習日誌の記録(40%)、事前事後指導での活動(実習報告会を含む)(40%)、100点満点で採点します。実習記録にはコメントを付して返却します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	養護実習直前指導
2	保健指導の模擬授業	各自の行う模擬授業を相互に評価する
3	保健室での実習	養護教諭の仕事内容
4	定期健康診断	進め方
5	目標に沿った事前準備	各自の目標の確認、実習校との打ち合わせ内容の確認
6	各学校の事前指導	保健指導、保健行事、担当クラス、保健室業務内容など
7	養護実習（1週目）	実習校の指導計画に則った実習 詳細は実習要項参照
8	養護実習（2週目）	実習校の指導計画に則った実習 詳細は実習要項参照
9	養護実習（3週目）	実習校の指導計画に則った実習 詳細は実習要項参照
10	養護実習（4週目）	実習校の指導計画に則った実習 詳細は実習要項参照
11	実習終了後の処理	礼状作成、実習内容の整理、異なる校種間での報告
12	実習終了後の処理	実習報告会に向けて内容の確認
13	実習成果のまとめ	法的根拠の確認
14	実習成果のまとめ	(グループ討議)
15	実習成果のまとめ	(グループ討議)

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科作成の「養護実習の手引き」

《参考図書》

『新養護概説』 采女智津江編 少年写真新聞社
『児童・生徒の健康診断マニュアル』日本学校保健会、第一法規
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

実習に向けて文献を参考に知識の確認と定着をはかる。基礎的技術の確認は、各自で実習室を有効に利用して行う。実習期間中の生活時間帯を想定して、規則正しい生活習慣を確立しておく。

《備考》

養護実習(5単位)の4単位分に相当する本実習です。免許取得の意志を明確にし、主体的に参加する。学生気分を退け、児童生徒の範となる言動をこころがける。

《教職に関する科目》

科目名	養護実習		科目ナンバリング	HTY044002	
担当者氏名	大平 曜子、加藤 和代、米野 吉則				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	4年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		履修カルテ参照			

《授業の概要》

養護実習は、これまでの専門知識や理論、技術や感性を、実践の場で展開していく、教職免許取得において重要な実習です。養護教諭の専門とする職務内容と、教師として知っておくべき事柄を再確認し、実習目的および各自の目標を明確に定め、実習校に赴きます。本科目は、事前指導(本時)から事後指導まで全過程を終了した時点で評価します。事後には実習における学びと課題を明らかにして報告会を開催します。

《授業の到達目標》

○養護実習の手引の目標を理解し、自らの目標に反映できる。
○養護教諭にとって必要な知識技術がわかり、その修得状況を確認できる。○定めた実習目標を達成すべく実習全般を通して取り組み、自分で自己評価ができる。○実習ノートの記載、事後の報告会のレジュメの作成、そして口頭発表まで、正確に情報発信ができる。

《成績評価の方法》

やむを得ない場合を除き、欠席は、いっさい認めません。実習校評価(20%)、養護実習日誌の記録(40%)、事前事後指導での活動(実習報告会を含む)(40%)、100点満点で60点以上を合格とする。到達目標に対して講評をおこなう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習終了の処理	成果の共有のため、グループで報告
2	実習成果のまとめ	実習内容の共有化と専門知識の確認
3	実習成果のまとめ	実習内容の共有化と専門知識の確認
4	実習報告会の準備	スライドの作成、レジュメの作成、報告会の運営についての話し合い
5	実習報告会の準備	各自の発表原稿の作成
6	実習報告会の準備	発表のリハーサル、原稿の修正
7	実習報告会での発表	報告会の運営、各自の発表、質疑応答
8	実習の総括	成果のまとめ
9	予備日	予備日
10	予備日	予備日
11	予備日	予備日
12	予備日	予備日
13	予備日	予備日
14	予備日	予備日
15	予備日	予備日

《テキスト》

兵庫大学健康システム学科作成の「養護実習の手引き」

《参考図書》

『新養護概説』 采女智津江編 少年写真新聞社
『児童・生徒の健康診断マニュアル』日本学校保健会、第一法規
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

実習に向けて文献を参考に知識の確認と定着をはかる。基礎的技術の確認は、各自で実習室を有効に利用して行う。実習期間中の生活時間帯を想定して、規則正しい生活習慣を確立しておく。

《備考》

Ⅱ期は養護実習の事後指導を含む総括の段階に相当する。実習報告会に向けて4週間の内容を整理し、今後の学校勤務に備える。

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（中・高）		科目ナンバリング	HTHH44012	
担当者氏名	樽本 つぐみ				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

生徒の発達段階を考慮し、栄養・運動・心の観察や指導方法を含んだ模擬授業やグループ討議を行う。また学校の見学や教員勤務経験のある方を講師として招き、学校現場に即した授業内容を展開していく。

《テキスト》

適宜紹介、オリジナルプリント

《参考図書》

適宜紹介

《授業の到達目標》

学生の現状の知識や技能を把握させ、教員としての自覚を持ち家庭や地域の実態を把握し、それに即した学級経営や教科指導、生徒指導を実践するために能力を身に付け、その能力を学校で発揮できる応用力を体得することが目標である。

《授業時間外学習》

自己課題をもとに予習復習を行うこと。

《成績評価の方法》

演習等への積極的参加(50%)、課題レポート・発表(50%)で評価する。
レポートにコメントを付して返却する。

《備考》

アクティブラーニングゾーンで授業を実施する場合もある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	目的及び内容の概略について、授業の進め方・評価について
2	構成的グループ・エンカウンター実践1	学校における活用法と指導者の心構えと指導技術
3	構成的グループ・エンカウンター実践2	エクササイズの実践
4	スクールカウンセラーとの連携	制度と職務内容の理解
5	不登校対策	対策について学ぶ
6	特別支援教育1	事例に学ぶ
7	教育方法技術1	導入編：視聴覚メディアの種類と特徴について、映像素材の収集
8	教育方法技術2	応用編：視聴覚メディアの編集と記録方法について、映像素材の編集と記録
9	特別支援教育2	エクササイズの実践
10	学級経営論1	地域、家庭との連携
11	学級経営論2	生徒指導の視点を生かした学級経営
12	学級経営論3	特別支援教育の視点を生かした学級経営
13	グループ討議1	集団行動および学校行事での保健体育教諭の役割について
14	グループ討議2	保健体育教諭の使命について
15	まとめ	振り返りと再確認

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（養護教諭）		科目ナンバリング	HTY044003
担当者氏名	加藤 和代			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
	履修カルテ参照			
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力				

《授業の概要》

教員（養護教諭）として求められる資質である①生命を守り育てる使命感や責任感、②確かで実践的な管理能力、指導力、③心と体を見つめた児童生徒理解、④保護者を含めた校内校外組織の中で連携するコーディネーター的能力の4つの視点から外部講師による演習、ディスカッション等を通して体験的に学ぶ。

《テキスト》

適宜紹介、オリジナルプリント

《参考図書》

適宜紹介

《授業の到達目標》

○これまでに履修した理論や実践をもとに、自己の課題を明確にし、課題解決を目指して具体的、実践的な学びを通して体験的に学ぶ。

《授業時間外学習》

自己課題をもとに予習復習を行うこと。

《成績評価の方法》

演習等への積極的参加（50%）、課題レポート・発表（50%）で評価する。
レポートは評価コメントを加えて返却する。

《備考》

アクティブラーニングゾーンを活用することもある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	目的及び内容の概略について、授業の進め方・評価について
2	構成的グループエンカウンター実践（1）	学校における活用法、指導者の心構えと指導技術
3	構成的グループエンカウンター実践（2）	エクササイズの実践、ファシリテーターの体験
4	不登校の子どもの理解とその対応	加古川市の不登校対策に学ぶ
5	特別支援教育の実際（1）	特別支援教育のシステム、発達障害の子どもへの対応
6	特別支援教育の実際（2）	教育的ニーズの理解、事例から学ぶ
7	スクールカウンセラーとの連携	制度と職務内容の理解、事例から学ぶ
8	教育方法技術（1）	導入編：視聴覚メディアの種類と特徴について、映像素材の収集
9	教育方法技術（2）	応用編：視聴覚メディアの編集と記録方法について、映像素材の編集と記録
10	保健室経営（1）	児童生徒の健康課題の把握、保健室経営案の作成、
11	保健室経営（2）	学級担任、保健主事、学校医等との連携を生かした保健室経営
12	保健室経営（3）	実践から学ぶ
13	グループ討議（1）	学校保健組織づくりについて
14	グループ討議（2）	養護教諭の使命について
15	まとめ	振り返りと再確認